奈文研の日越文化財協力事業

ベトナム政府は、かねてから日本の協力を得て中部クァンナム省ホイアン市、トゥアティエン・フエ省フォックティック村、北部ハノイ市ドゥオンラム村において集落保存をおこない、日本の伝統的建造物群保存地区を下敷きとした文化財の保存と活用の両立をはかる制度を運用し、ホイアンは世界遺産になる等実績をあげています。奈良文化財研究所は日本政府のおこなう日越文化財協力事業の一翼を担い、これまで国内で培った伝建保存対策調査のスキルを生かしてベトナムで集落調査をおこなってきました。

ティエンザン省カイベー県はベトナム南部のメコンデルタに位置し、メコン川支流に面する中心部は物資の集散地として栄えました。今回ベトナムの国家文化財となったドンホアヒエップ村はカイベー市街地北郊にあり、水利を活かし、開拓期の19世紀には稲作、近年では果樹栽培をおこなっている村です。メコン川の支流同士をつなぐ運河沿いの敷地に洋風の外観の混じる伝統的な住宅の主屋が建ち、背後に果樹園が広がる緑豊かな農村景観は多くの旅行者を魅了しています。

今回の国家文化財指定は、奈文研が2011年から2013年にかけて実施した調査にもとづいておこなわれています。12月１・２日には外務省在ホーチミン領事や国際交流基金ハノイセンター長の出席のもと指定記念式典が現地でおこなわれ、その一環として国内や日本の保存地区関係者を招いてのシンポジウム、伝統的民家における茶道、華道、書道、日本料理等の実演がおこなわれました。

ベトナムの事例は文化財を通じた国際協力の成功例として自負できるもので、今後も、その保存と活用等に積極的に協力していきたいと考えています。

（文化遺産部　林 良彦）

主屋と副屋が並ぶ伝統的家屋

日韓発掘交流に参加して

奈良文化財研究所では、2006年より大韓民国国立文化財研究所との発掘交流を実施しています。これは両研究所の共同研究の一環で、双方の研究職員が互いの研究所に約２ヵ月間滞在し、実際の調査に参加するというものです。本年度は私が奈文研からの交流員として、2017年10月23日から12月15日まで、国立慶州文化財研究所に滞在しました。

今回の滞在期間中、私は新羅の王宮遺跡である月城の発掘調査に携わりました。国立慶州文化財研究所では、月城の発掘調査を継続的に進めています。西側城壁のあるA地区、宮殿の中心部であるC地区、外部の濠状遺構の咳子地区の３ヵ所の調査区のうち、私はC地区の発掘現場に参加しました。

実際の発掘調査では、日本で目にするものとは異なる遺構・遺物の数々に感動と驚きを覚える毎日でした。また、調査の進め方や遺構・遺物の解釈等多岐にわたり、韓国の担当者と片言の韓国語や英語、日本語とともに、スマートフォンの翻訳アプリ等も用いて議論をしながら発掘調査を進めました。ときには資料を作成し、多くの関係者と打ち合わせをする機会もありました。調査の方法や習慣のちがいなど、戸惑うことも少なからずありましたが、韓国の研究者とともにたくさんの成果を共有できたことは大きな収穫でした。

今回の滞在で様々な成果が得られたのは、両研究所が10年以上にわたって築いてきた信頼関係があってこそ、と確信しています。今後も一所員として共同研究に携わりたいと思います。

（都城発掘調査部　丹羽 崇史）

月城での発掘調査の様子